

新 G7宮崎発ピーマン自動収穫技術活用事業

農業普及技術課 23,997千円
【財源：国庫、宮崎再生基金】

事業の目的

G7宮崎農業大臣会合で採択された「宮崎アクション」の実現に向け、農業生産のイノベーションにより産地を維持拡大し、持続可能な農業の基盤を築くため、ピーマン自動収穫技術に対応した栽培体系を確立する。

事業の概要

(1) 事業内容

○ 自動収穫技術導入実証事業

総合農業試験場や協力農家のほ場において、自動収穫ロボットを試験運用することにより、自動収穫技術導入の課題等を整理し、官民で組織するコンソーシアムで共有・検証することで自動収穫に最適化された栽培体系を確立



(2) 事業の仕組み

○ 県、県 コンソーシアム

(農業者、農業団体、収穫ロボット開発企業、農業関連企業 等)

(3) 成果指標

自動収穫に最適化された栽培体系の確立

自動収穫ロボット導入農家 現状（令和5年度）0件 → 令和7年度 15件



ピーマン自動収穫ロボット

事業の期間

令和6年度～令和7年度

【別紙】 新 G7宮崎発ピーマン自動収穫技術活用事業

ピーマン自動収穫技術に適した栽培体系の確立に向け、官民からなるコンソーシアムで取組を推進

自動収穫に適した「**管理方法**」の検討

管理方法等の異なる複数のハウスにおいて検討

- ・ 枝や葉の混み具合が与える影響
- ・ 何日おきの収穫が適切か
- ・ ロボット設置に適したハウスの構造 等



枝の近くや葉に隠れたピーマンの収穫は困難

自動収穫に適した「**仕立て方**」の検討

ロボットが収穫しやすいよう奥行きが少ない仕立て方「垣根仕立て」等の検討



自動収穫ロボットのアーム

